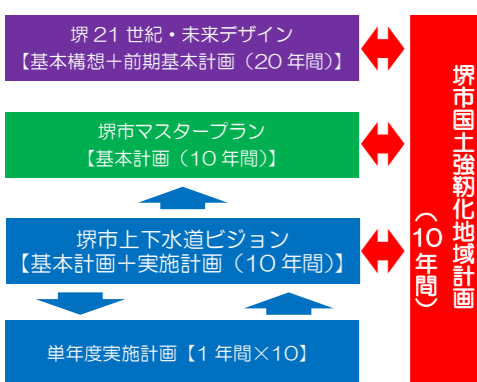


堺市上下水道事業経営診断書【概要版】

堺市上下水道ビジョン 経営管理のしくみ ～計画と実績評価～

<計画と実績評価のしくみ>

1 上下水道ビジョンの位置付け



堺市マスタープラン（H23年度～R2年度）
堺市総合計画「堺21世紀・未来デザイン」の基本構想のもと、基本計画と実施計画の要素を併せた都市経営の基本戦略。

堺市国土強靱化地域計画（H28年度～R7年度）
国の「国土強靱化基本法」及び「国土強靱化基本計画」に基づき、堺市において大規模自然災害が発生した場合、「災害に強い堺市」「災害から素早く立ち直る堺市」として「強靱な地域」をつくりあげるための取組を推進するために作成した計画。

堺市上下水道ビジョン（H28年度～R7年度）
堺市総合計画「堺21世紀・未来デザイン」の基本構想のもと、マスタープランを下支えする、基本計画と実施計画を併せた水道・下水道事業の基本戦略。投資計画と財政計画からなる中期計画。堺市国土強靱化地域計画（H28年度～R7年度）は本計画と整合が図られている。

単年度実施計画
堺市上下水道ビジョンを実現するために年度ごとの業務を記載した実施計画。

2 経営診断の目的

上下水道局は上下水道ビジョンの実現に向け、単年度実施計画のもと事業を行っています。この単年度実施計画に対し、上下水道局はPDCAサイクルによるマネジメントを導入しており、経営診断はPDCAサイクルのCheck（評価）として、自己評価と外部評価（懇話会）により実施しています。

3 診断結果の活用

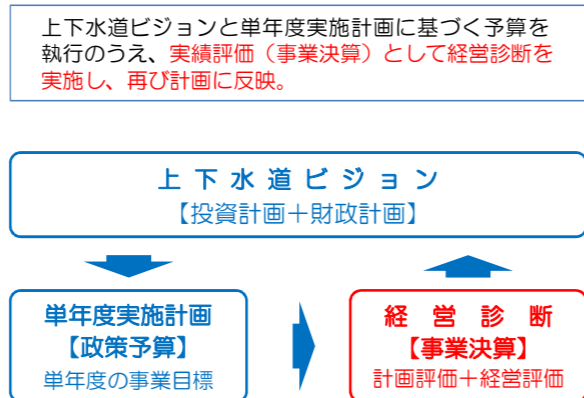
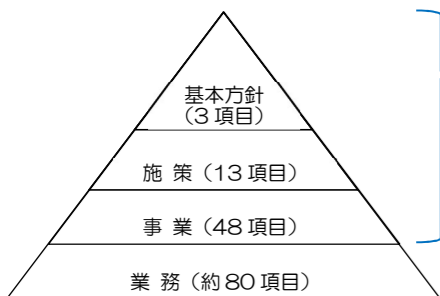
- PDCAサイクルとして診断結果（Check）を、年度後半の取組と次年度の単年度実施計画に反映（Action）します。
- 診断結果を経営診断書にとりまとめ、上下水道局HPにて公表し、市民の方の水道・下水道事業に対する理解と経営の透明性を高めます。

6 実績評価（経営診断）の手法

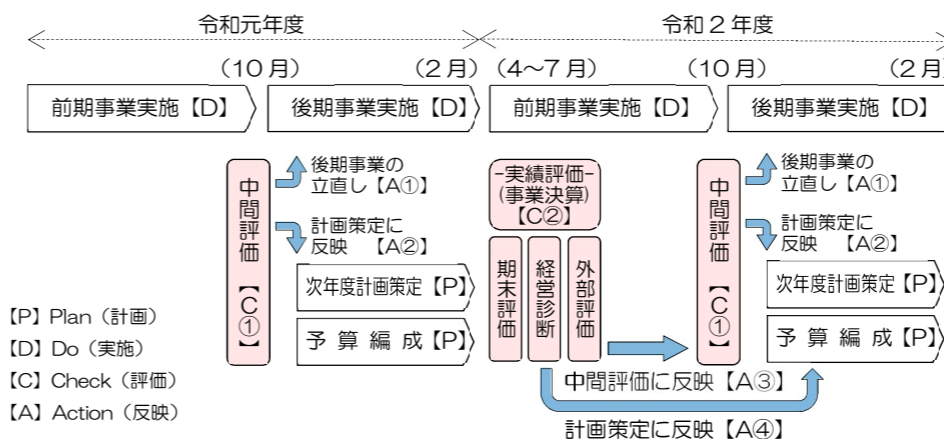
- 決算結果に基づく経営分析（経営指標・財政計画）
↓
『経営の健全度』を評価
- 単年度実施計画の計画評価
↓
『計画の進捗度』を評価

4 計画（予算）と実績評価（事業決算）の関係

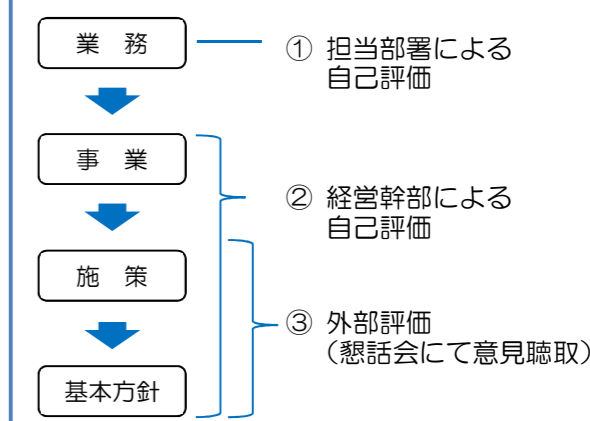
- 【基本方針】
- 安全安心なライフラインの確保
 - 将来に向けた快適な暮らしの確保
 - しんらいを築く堺の上下水道への挑戦



5 実績評価（事業決算）の流れ



7 実績評価（経営診断）の流れ



令和元年度 実績評価（事業決算）

<経営分析>

■水道事業

①収益性	単位	望ましい方向	令和元年度	平成30年度	大都市平均(H30)
経常収支比率	%	↑	109.0	110.3	115.0
②安定性	単位	望ましい方向	令和元年度	平成30年度	大都市平均(H30)
自己資本構成比率	%	↑	68.5	68.9	67.9
③効率性	単位	望ましい方向	令和元年度	平成30年度	大都市平均(H30)
職員一人当たり給水量	千m ³ /人	↑	525	541	371
④料金	単位	望ましい方向	令和元年度	平成30年度	大都市平均(H30)
給水原価	円/m ³	↓	156.7	156.2	155.9

【懇話会意見】

- 人口減少による水需要の減少に加え、料金値下げにより収入が減少したが、純利益を13億円確保し、内部留保資金により企業債を償還できている。これらは、経営努力の成果もあるが、企業債利率の低下など外的要因によることも多く、今後、厳しい経営状況が予想されることから、効率的な事業運営に取り組まれない。
- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う市民生活や企業活動の影響により、有収水量も平常時に比べて変化しているため、経営状況を注視されたい。
- 有収率の向上（不明水の削減）に関しては、これまでの取組に加え、給水装置の漏水の抑制など、多角的な取組みを研究していただきたい。

■下水道事業

①収益性	単位	望ましい方向	令和元年度	平成30年度	大都市平均(H30)
経常収支比率	%	↑	107.4	106.7	107.7
②安定性	単位	望ましい方向	令和元年度	平成30年度	大都市平均(H30)
自己資本構成比率	%	↑	48.0	47.7	55.9
③効率性	単位	望ましい方向	令和元年度	平成30年度	大都市平均(H30)
職員一人当たり処理人口	人	↑	4,716	4,806	-
④料金	単位	望ましい方向	令和元年度	平成30年度	大都市平均(H30)
汚水処理原価	円/m ³	↓	155.3	158.7	132.5

【懇話会意見】

- 下水道事業では、これまでの経営改善の取組が実を結び、計画よりも1年前倒して累積欠損金が解消するなど、経営状況の改善が着実に進んだ点で評価できる。
- 再生水供給事業については事業のあり方を含め、見直しを検討されたい。
- 下水道事業そのものの構造上の問題により急激な経営改善は難しいが、アセットマネジメント計画による中長期の投資と財政状況の見直しを立て、資産の有効活用や使用料水準の適正化を含めた、経営改革に取り組んでいただきたい。

<計画評価>

1.安全安心なライフラインの確保

施策名	令和元年度	平成30年度
(1) 安全で安心な水道水	S	A
(2) 震災に強いまちの実現	A	B
(3) 雨に強いまちの実現	C	A
(4) 危機管理対策の推進	S	S

2.将来に向けた快適な暮らしの確保

施策名	令和元年度	平成30年度
(1) 里道・私道の汚水整備（衛生的に暮らせるまちの実現）	A	S
(2) 川や海の水環境が良好に保たれるまちの実現	A	B
(3) 上下水道が安定的に機能するまちの実現（施設の維持管理と更新）	B	B
(4) 上下水道が安定的に機能するまちの実現（持続的な企業経営）	A	B
(5) 潤いと活力のあるまちの実現	A	A
(6) 地球温暖化対策を推進するまちの実現（環境負荷の低減）	A	A

3.しんらいを築く堺の上下水道への挑戦

施策名	令和元年度	平成30年度
(1) お客さまとのパートナーシップの形成	A	S
(2) 人材育成の充実・運営体制の強化	S	A
(3) 先進的な取組への挑戦	S	A

凡例 S：計画を超えて達成した A：計画を達成した
B：計画を概ね達成した C：計画を達成しなかった

【懇話会意見】

- 安全安心なライフラインの確保
 - 「安全安心なライフラインの確保」は、ほぼ着実に進んでいると評価できる。
 - 他工事の要因であったとはいえ、雨水整備事業の推進で遅れが見られた。令和2年度末までの目標達成には影響はないとのことであるので、着実に事業を進められたい。
 - 新型コロナウイルス感染拡大の中でも、感染拡大の兆候が見られた早期から、止めることのできない水道、下水道の事業継続に向けた取組を実施した。具体的には水道の安全性を市民に周知し、業務継続計画を策定するなど、適切に対策を講じており、高く評価できる。
- 将来に向けた快適な暮らしの確保
 - 「将来に向けた快適な暮らしの確保」は、概ね進んでいると評価できる。
 - 水道料金制度の適正化を実現したことは、将来にわたる健全な経営に繋がる取組として高く評価できる。
 - また、下水道事業は、処理単価を下げる取組が継続して行われていることに加え、旧津久野下水処理場の売却など、資産を有効活用し、収入を確保したことは高く評価できる。

3.しんらいを築く堺の上下水道への挑戦

- 「しんらいを築く堺の上下水道への挑戦」は、積極的に取り組まれていると評価できる。
- 府域一水道に向けた関係者間の調整や周辺市との協定の締結、組織体制の課題解決のための組織改正、下水道MBRに関する共同研究、ICTの積極的な活用、お客さまサービス向上に向けた広報活動など、組織や運営体制を強化する取組やお客さまサービス向上のための取組が、一部で計画以上に実施されるなど、高く評価できる。